

コスモゼロ52型

(宇宙戦艦ヤマト)

バンダイ ノンスケールプラスチックキット
製作・文 政府開発援助

1. コスモゼロについて

コスモゼロ52型は地球防衛軍宇宙艦隊所属の艦載戦闘指揮兼突撃戦闘機で、大気圏内での運用も可能である(本機の外見上の大きな特徴である機体下側の垂直尾翼は、大気圏内における運動性向上に寄与していると考えられる)。宇宙戦艦ヤマトにも複数機が配備されており、戦闘班長・古代進が搭乗することが多い。

本機の操縦者席後部には戦闘指揮・偵察・探索等の任務を想定して、通信・索敵・ナビゲートを行う為の座席が用意されている(操縦者一人で戦闘機としての使用は可能)。固定武装として、機首部分に20mmパルスレーザー4門及び26cmグレネードランチャー1基を装備している。また、主翼下面には通常一対の増漕を装備しているが、作戦に応じて対艦ミサイル等への換装も可能である。

2. キットについて

ヤマトメカコレクション全30種の中盤(昭和55年6月)にキット化されたもので、水準以上の出来といえます。ただなにぶん昔のキットなので、尖っていて欲しい箇所が太い点や各翼が厚い点が気になります。もっとも発売当時100円(再販価格200円)という価格を考えれば贅沢は言えません。全体にはっきりしたスジボリが施されておりますが、スケール(当方試算によると約1/170)を考慮すると若干太いかもかもしれません。設定では着陸時に引き込まれる下側垂直尾翼は両方の状態を再現できる部品が付属しており、なかなか親切的配慮といえるでしょう。

3. 製作と塗装について

作業のやり易さを考えて主翼を一旦胴体から切り離し、断面形状を考慮しつつ4枚の翼の厚みを薄くしています。下側垂直尾翼は引込機構の説得力を増す為、飛行状態のものを切り詰めて用いました。キットのフォルムはほぼ正しいのですが、この作業により胴体が箱状なのが目立つようになるので、機首部分やエンジン部分を中心に滑らかに削りました。エンジン上面のパネルはエアブレイクと解釈できる資料があったので凸モールドとしています。前脚は歪みがひどかった為車輪を切り飛ばして整形し、市販のリベットパーツで作り直しました。後脚はカバーを薄くしたのみです。最終段階で各翼の先端を削って尖らせましたが、ポキポキと折れるのには難儀しました。機首のアンテナ(とおぼしき2本のトゲ)は付け根に真鍮管を埋め込み、ステンレス線に置き換えました。キャブは0.5mm塩ビ板のヒートプレスにより作り直し、コクピット内にはプラ板より複座のシートをそれぞれ作って有ります。ここが一番の難関でした。

塗装は全体にグンゼの缶スプレーの明灰白色を吹いた後、機首を赤色、防眩塗装をつや消し黒、コクピット内をグレーFS36081、エンジン噴射口をメタリックグレイ、脚柱を銀色、味方識別色をレモンイエローで塗り分けています(ラッカー系・エナメル系を使い分けいずれも筆塗り)。スミ入れはいつものガンダ



前面



後面

ムウエザリングマーカで、スケールを考慮して控えめにしています。最後にモデラーズのツヤ消しクリアを吹いてツヤを整えました。

4. 製作過程



着陸脚以外のほぼ全部のパーツ。主翼は本体から切り離した。この後各部品を薄く成型していく。

手前にあるのはキャノピー部分をエポキシパテで複製したもの（ヒートプレスの原型となる）。

ヒートプレス失敗状態（奥）と成功して切り出したキャノピー部品（手前）。シートはプラ材で自作した。

翼端や増漕は尖らせた。前輪はリベットパーツに交換。左端はキャノピーフレーム再現用テープ。